

建設防災 ボランティアニュース 第 59 号

目次

- ・ 建設局初動対応訓練に参加
- ・ 建設局長の感謝の会
- ・ 砂防講習会
- ・ 西建との意見交換会

建設局初動対応訓練

建設局初動対応訓練が、2月3日(水)の7時から12時まで、本庁及び各建設事務所・公園緑地事務所の連携のもと実施されました。

「建設局職員の災害発生時における対応能力の向上を図る。」「震災対策の手引き(第5版)の内容を踏まえて実施する。」を目的として、局からの協力依頼に基づき、各事務所班から合計85名の協会員が訓練に参加しました。

事務所	参加者	事務所	参加者
一建班	8名	西建班	6(3)名
二建班	6名	南東建班	6(3)名
三建班	8(2)名	南西建班	7(2)名
四建班	10名	北南建班	6名
五建班	6名	北北建班	4名
六建班	7(1)名	東部公園班	5(2)名
		西部公園班	4(2)名
合計	83(15)名		

()内：参集訓練参加者内書

今年度は、訓練事務局の補助無しでは、本部の設営・運営ができない、訓練のための訓練になっているという課題に対し「事務局の事前準備を最小限にし、実践的な訓練にする。」、また地図への図示方法が人によりバラバラで重要度の把握に手間取る、各機関への連絡に使用したFAXが机上に散乱しているという課題に対し、「情報整理方法を統一する」ことを試行しました。

多少寒くはありましたが、天候に恵まれ、実践的な訓練になったと思います。訓練当日に向

けて事前調整いただいた各班のリーダー、サブリーダーの皆様、訓練に参加された会員の皆さま、そしてなによりご指導いただいた事務所の皆様に感謝申し上げます。

担当理事 久保田元久

各事務所班からの報告

一建班

一建班の初動対応訓練には、当協会から新井、佐野、田所、平田、藤田、藤野、堀中、村山の計8名が参集した。朝9時過ぎには全員が到着し、受付を済ませて控室に集合。第一建設事務所実施要領にも再度目を通し、準備万端となったところで10時。各2人ずつ配属先となる応急対策班現場点検6係・7係・8係と支援班用度支援担当に分かれ、各班長からの指示を受けて任務に就いた。

点検6係は、勝鬃橋取り付け部に発生した段差。点検7係は隅田川テラスの陥没。点検8係は建物倒壊による新大橋道路歩道閉塞。そして、用度支援担当は自家発電機起動による3階防災対策本部前への送電など、それぞれの任務を現役職員と共に手際よくこなした。

現場点検においては、本部への無線連絡の際の簡潔な表現方法や、往路と復路を変えて道路その他の被災状況も確認することなど、建設防災ボランティアとしての経験を生かした適切なアドバイスを現役職員に行い、実戦を想定した有意義な訓練が実施できた。

また、恒例の非常食については、被災下での状況を想定し、とにかく手際よく調理するよう

当協会ベテラン会員の指導もあり、限られた時間内に必要な調理が全て完了した。



石坂所長、秋元副所長、奥山課長、岡本課長と協会員

訓練終了後には、所長以下一建管理職と記念撮影をし、発災時の対応に向けて士気を高め合って解散となりました。

一建班 村山公一

二建班



砂田所長と船山、岩井、倭文、藤田、古川、野村会員

三建班



新谷所長、片岡副所長と加藤、川口、中田、井出、滝沢、佐々木、篠原の各会員

四建班

首都東京に震度6弱以上の大規模地震が、いつ起きてもおかしくないと言われる中、平成27年度の初動対応訓練は実施された。

これまでの訓練は、「事務局による補助なしでは、本部の設営・運営ができず訓練のための訓練になっている」「地図への図示方法がバラバラで、重要度の把握に手間取る、連絡に使用したFAXが机の上に散乱している」ことの反省から、今年度は、「事務局の事前準備を最小限にし、実践的な訓練にする」「情報整理方法を統一する」との方針で行われた。

寒さ厳しい冬日、午前7時から全職員の安否確認に始まり、参集訓練、本部運営訓練が粛々と行われた。参集者は、参集途上で30分ごとにその時点の位置と被害状況、参集ルートを記入するなど本番さながらであった

こうした中、四建班は10名(新井、小山、丸山、久保田、戸張、小柴、伊藤、大畑、平野、加藤)は、全員が4km圏内に居住していないため、10時の交代要員引継訓練からの参加となった。

本部運営訓練は、本部長の下、各班の役割に基づき点検出動訓練(被害・復旧確認)、情報連絡訓練(被害状況報告・被害箇所図示)等を行うものである。今年度は、防災ボランティアも応急対策班(現場点検担当)に加え、作戦班(総務担当、道路担当、河川担当)に編入された。これにより、訓練全体の状況が解り、局本部、事務所本部、現場等との情報連絡を如何にスムーズに行うかが課題であると痛感できた。

また、四建は、訓練となる会議室が狭く、本部でも作戦班と応急対策班が別室となり、情報連絡手段のデジタルMCA無線、防災無線、電話、FAXの授受が工事二課となるなど本部と情報を共有する効率の面で課題があると思った。

さらに、人が右往左往する混雑の中での的確な行動を取るためには、各班の班長がてきぱきと職員・防災ボランティアに指示するかが重要であるが、適切に行われていたことは称賛に値する。

併せて、被害想定箇所(道路3箇所、河川1箇

所)が重要度に応じて、A=赤、B=黄、C=青と見やすく図示され、FAXの送・受信(未処理・処理済)が別々の箱に分けて整理され、改善が見られ大変良かった。

一方、情報連絡の手段では、MCA無線の交信に同じチャンネルを使用する他の事務所間との混信が見受けられた。実際の災害時には、より多くの交信が飛び交い情報が錯綜することを考えると、まず、自局名と相手局は明確に告げて受け間違いを防ぐこと、用件は端的に解り易く伝えるなどに加え、より細かく使用チャンネルを各事務所に割り振るなどの改善も必要と思われる。

また、ホワイトボードを使い、現場ごとの対応事項を時系列に記入し情報共有していることはよいが、現場数が多い場合や対応が数日間に及ぶ場合など本番を想定して対応する工夫が必要になると思われる。さらに、応急対策班の現場点検でレスナビを用いての被害・復旧状況の送受信は、リアルでスクリーンにも投影でき大いに活用すべきと思う。

今回は事務局による事前準備を少なくした、より実践的な訓練であったが、四建職員と他事務所職員、防災ボランティアが一体となり、緊張感を持ちながら取り組んだことは評価できる。

そして11時40分に、Web会議システムにより、佐野建設局長が訓練に参加した局職員、ボランティアに感謝の言葉と今後想定外のことに適切に取り組み、さらに訓練を積み重ねることが重要である旨のお話があり、訓練は滞りなく終了した。



荒井所長、佐野副所長と参加した協会員

訓練終了後、四建のご厚意で所長室にて荒井所長、佐野副所長と炊き出しの非常食を頂きなが

ら懇談した。大変有意義なものとなった。訓練に参加した職員、防災ボランティアの皆さん、寒い中お疲れ様でした。

四建班 小山 完治

五建班



小林所長、春田副所長、宮崎課長と林、宮崎、阿部、青木、坂元、萩原会員

六建班



渡辺所長と高橋、星野、高杉、浅田、長島、横井、遠藤会員

西建班



村井所長、小野副所長、新谷課長と山縣、稗田、河合、佐藤、清水、谷村会員

南東建班

当日は協会員 6 名が参加しました。7 時 30 分自宅発組の原田、矢内、柴田の 3 名が 8 時 30 分には全員事務所に到着し、初動訓練に参加していました。また 8 時 30 分自宅発組の佐々木、本間、丸岡の 3 名は 9 時 30 分頃には事務所に到着し、全員訓練業務に参加しました。

南東建事務所のパソコンが、訓練当初は局との回線の不具合でつながらない状態でしたが、中村所長がいろいろと操作していたところ、11 時ごろに復旧し、局長の講評を我々も見ることができました。



中村所長、望月副所長と参加した協会員

南東建班 柴田賢次

南西建班



松浦所長、池内副所長、江沢課長、岩成課長と老沼、中込、井上、堀内、林、高橋、吉田会員

北南建班

今年の初動対応訓練には、防災ボランティア会員 4 名が交替要員引き継ぎ訓練から参加す

ることとなった。事務所本部開設訓練を速やかに引き継ぎ、点検出動訓練も人員を変えて点検出動するなど、要員入れ替え時の引き継ぎをスムーズに実施・対応する訓練である。

災害対策本部詰めの作戦班メンバーとして、総務班に新川、道路班に池田、内山、河川班に榊原が配置され、現職職員のリーダー、サブリーダーを支えて、情報整理方法の統一などについて、冷静に検証していく役割であった。

訓練では、点検出動班の情報や局本部への報告などを迅速かつ正確に伝達することを考え、連絡用紙の送信済み、未処理の確認がしやすいようにするなど、実践的な訓練となることを目指した訓練であった。

北南建職員のほかに、私たち防災ボランティアや他事務所の職員が訓練に参加したが、現在事務所は庁舎の改修工事のため防災行政無線などの機器が分散配置されており、災害対策本部となる別棟に機器を集めることから訓練が始まった。また WEB 会議用のインターネットが不具合となったハプニングもあり、「局長訓示」などが無線での対応となるなど、震災本番時のような臨場感があった。

「こちら防災北南 1、本部応答願います。」などの無線が入ってくるなか、現場からの無線が混信し、なかなか明瞭な交信ができない状況もあり、レスナビは効果が期待できる連絡方法であった。



齋藤所長、寺内副所長と協会員

今回の訓練は齋藤所長を本部長として総勢 58 名という人員が参加した臨場感のある『実

実践的な訓練』であったと感じられた。

北南建班 新川 彰

北北建班



藤木署長、石内副所長と林、藤井、飯塚、野村会員

東部公園

今回の訓練には鈴木、小林、角田、上杉、佐藤の5名が参加しました。このうち鈴木、佐藤は4km圏在住のため7時半に自宅を出て徒歩で参集しました。事務所に到着したときには、既に参集していた職員が本部開設や班編成の準備を機敏に行っていました。

8時半には作戦班から応急対策班に現場点検の指示があり、急きょ点検班（4班）に組み込まれた「山口（公園緑地部）、鈴木、佐藤」の3名は被害想定箇所である不忍池中通りの護岸崩壊箇所に向かいました。一部護岸崩壊により通行不能となったことから、カラーコーンとバーで中通り全体を通行止めとし、弁天堂やボート乗り場の関係機関に連絡をとりました。

また、10時から班の編成替え及び引き継ぎが行われると共に、新たに小林、角田、上杉の3会員が加わり、それぞれ応急対策班（点検班）として活動しました。「加藤（東部公園）、角田、上杉」の（3班）は上野公園中央部にあるお化け灯籠の倒壊場所へ向かい、所有者である寛永寺の職員から対応状況等を聴取し本部へ連絡をしました。「小林、鈴木、佐藤」の（4班）は不忍池中通りの護岸崩壊

箇所へ再度向かい、周辺の護岸について調査し異常がない旨を本部へ報告しました。

12時には細岡所長から訓練終了に伴う講評がありました。会議室のスペースが狭く「本部・作戦班」と「支援班・応急対策班」が別々の会議室で活動したことにより、相互の連絡がスムーズに行われない場面もあったので、今後の課題にしたいと話されていました。

所長の講評終了後、支援班の方が水で作ったアルファ化米（五目御飯）をご馳走になり散会しました。水でも十分美味しく頂くことができました。



細岡所長、大野副所長と協会員

最後に、実際に大地震があったとき、動物園の動物たち（虎・ライオン・豹・象など）がおとなしくしていることを願うばかりです。

東部公園班 鈴木進

西部公園班



伊藤、二宮、小口、湯本会員

建設局幹部との懇親深まる



さる1月15日(金)に佐野建設局長始め局幹部職員28名、ボランティア69名あわせて97名の参加を得て、平成27年度の『感謝の会』が盛大に催されました。会は18時過ぎから我々にとっては懐かしの第二庁舎4階食堂において鹿田総務課長の司会進行で開始されました。

冒頭、佐野局長からは、「防災都市づくりが都政の重要課題であり、木密地域の特定整備路線

の整備や集中豪雨対策としての広域調節池の整備などハード面の対策に加え、発災時の初動対応を整えるという重要課題に対する一翼を担っていただいていることに感謝」といった内容お言葉をいただきました。



これに対し杉浦会長からは、幹部職員へのお礼、ボランティアの活動内容を簡単に紹介したほか、懸案事項としてボランティアの新規会員の減少や高齢化などの懸念について触れ、そうした中でも会の拡充に努めていく旨の挨拶がありました。



福田次長の力強い乾杯で、懇親会が始まりました。双方から貴重な日本酒を持ち寄ったのですが、局からはかつて昭和天皇の即位式典に使われた福井県鯖江市の名酒「梵」の大吟醸が振舞われ、

皆さん十分堪能されていました。

会場の各場所で現役職員とボランティアの間で活発で笑いの絶えない懇親の宴が続けられましたが、2時間弱の懇親も中締め時間となり、西倉道路監から「有事はもちろん勝鬨橋ミニツアー他の様々な活動にも期待している」旨のお言葉の後、にぎやかな三本締めで閉会となりました。



申年は災害が多いと言われますが、災害が起きずにわれわれのボランティア活動が平常時の楽しい活動だけに限定されるよう祈るばかりです。

六建班 長島修一

大島土砂災害と砂防講習会

平成25年10月16日、台風第26号による豪雨は、大島で24時間雨量824ミリ、時間最大雨量122.5ミリという未曾有の豪雨となった。町の中心部である元町地区・神達地区を中心に大規模土砂災害が発生し、死者36名、安否不明3名、家屋全壊50棟、半壊・一部破損103棟に及んだ。当日、町長と副町長が不在、かつ、防災担当者が1名だったことなどが、その被害の大きさとあわせ、マスコミの大きな関心呼んだ(因みに現町長は当時の役場課長が就任)。

自身、同年3月に都を退職し、4月からR工業(当社は、地盤改良と斜面对策を主要な業務としており、伊豆・小笠原諸島でも長い施工実績を有している)に勤務していた。災害翌日の10月17日に現地に入り、国土交通省、河川部等の調査隊に同行し、捜索活動の真ただ中、大金沢や長沢についてドロ、流木や瓦礫の中をかき分け調査したことが今でも鮮明に記憶の中に残っている。

災害から2年以上が経過し、町は一見平静を取

り戻した感はあるが、まだまだ復興途上である。災害にあった方々の住宅については現在建築中のものもあり、主要な復旧対策の一つである斜面工事についても、都の短期対策の最終年である28年度に向け努力を重ねているが、様々な工事が錯綜し、搬入路の確保、離島ならではの土砂処分など様々な課題をクリアする必要がある。

都は、当初から副知事を現地に就かせ、陣頭指揮をとるとともに、必要な体制を構築し、復興を軌道に乗せた意味は大きい。当時、マスコミ等からの技術的な質問について、技術のトップである大島支庁の土木課長は疲労困憊のなか的確に受け答え、それをバックアップする土木課職員の対応は頼もしく誇らしいものであった。これは、これまでの島嶼での様々な災害、新潟地震や東日本大震災への応援等の経験を活かした成果であり、今後も災害と隣り合わせで暮らす東京(日本)において、このような経験を次の世代に伝えることの重要性を改めて認識させられた。

さて平成27年12月21日(月)、東京都道路整備保全公社の会議室で、3年ぶりに「砂防講習会」が、会員38名の参加者により開催されました。



お忙しい中、三浦河川部長をはじめ関係職員の方々に御参加いただき、部長からは、日々のボランティアの活動に対する感謝、河川を取り巻く様々な災害に対してハード・ソフト合わせて取り組んでいるとの挨拶がありました。吉原防災課長からは、全国の災害状況や都の砂防関係事業の伸びなど全般の話が、守屋砂防係長からは、大島の土砂災害対策について災害時の写真等を駆使した迫力ある報告、岩田計画調査係長からは、ハード・ソフト両面からの土砂災害対策について、

ハード対策に加え、約1万5千か所の土砂災害危険個所の区域指定を平成31年度までに完了させるとの説明、気象庁から出向中の村さんからは、気象情報や土砂災害に関する警戒情報の基準や土壌雨量指数等について、わかり易い説明がありました。引き続き質問でも、時間内で活発な質疑となりました。

本講習会においては、災害復旧等をテーマとして取り上げ、説明する側も、受講する側もお互いが研鑽することにより、技術の継承や多くの災害の場面で貢献できる職員の育成につながることを期待します。

都庁では河川関係職場に長く従事し、現在の勤務先が斜面对策を主要業種としており、また大島土砂災害対策等に直接携わっていることから、1日も早い復興を願わずにはいられない。36名の尊い命、3名の行方不明者、被災された方々……合掌

北南建班 舛原邦明

西建との意見交換会

平成28年2月19日、西建班から河合、小山弘光、小山幸也、佐藤、清水、高橋、谷村の7名が出席し、西建管理職との意見交換会を開催しました。

西建からは、新たに事業化された国道411号滝山街道鯉川橋、秋川南岸道路下元郷地区についての説明がありました。永年、西建事業に携わってきた会員からは、懸案であった鯉川橋の事業着手を喜ぶとともに、豪雨により通行止めとなる秋川南岸道路の整備推進に強い期待が寄せられました。

続いてボランティアから、今年度の協会の活動や会員の参加状況についての説明や、支援事業に参加して気が付いた点などの感想を話しました。道路施設のバリアフリー点検では、五日市線と交差する雨間立体の歩道は、次の写真のように、途中に踊り場がない長い縦断勾配となっているため、車椅子を使っでの通行には不安を感じたこと、ま



た広い植栽帯の取り方、道路排水勾配の付け方などについて、気付いた点、感想、提案等がありました。

また、設計時のチョットした配慮やチェック体制及び技術の継承は、現在どのように行われているのかなどについての質問が出ました。西建からは、以前は係内の次席が設計チェックや指導を行っていたが、現在は職員も減り若手・ベテランは多いが中堅職員層が少なく、また係内定数も少ないなどにより指導育成が難しいことや、若手職員への職場研修も実施しているが苦慮しているとの説明がありました。

更にボランティアから、西建は橋梁やトンネル、道路線形計画、砂防・災害防除など、他の事務所とは違った業務の特殊性があり、職務分野別の研修を行ってはどうかとの意見も出ました。西建からは、通り一遍の研修よりも、むしろ先輩たちが苦労した経験や失敗談、或いは道路法面の斜面管理番号は、どのような経緯から番号が付けられるようになったのかなどのお話を若手職員にされると有意義ではないかとの意見がありました。



意見交換会の様子

今回の意見交換会は、防災ボランティア協会各会員の経験や失敗談、今は当たり前となっていることがどういう経緯でそうなったかなど、今後内容を詰めて職員に話すことでまとまりました。

当日は、秋川南岸道路の地元説明会を夜に控えるなど忙しい日程のなか、村井所長をはじめ西建管理職の方々には有意義な意見交換会を開催いただき大変ありがとうございました。

意見交換会の後、場所を移しての懇親会では更に話が盛り上がりました。

西建班 谷村秀樹

訃報

去る2月19日に防災ボランティア協会顧問で、勝鬃橋ミニツアーにも長くご参加いただいていた、石川金治さん(79歳)が御逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

※ 協会からのお知らせ ※

① 各班の活動報告をお待ちしています。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。

林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)

② 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア掲示板)も、たまに覗いてみてください。建設局報も見る事が出来ます。

アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

前号で紹介した新入会員の「山縣政彦」さんの表記が間違っていました。お詫びいたします。

今号の『感謝の会』の写真は藤田理事にお願いしました。写真は自分でも下手だと感じていましたが、あまりの出来の違いに唖然としました。今後も写真を趣味とされている方をお願いしたいと思っておりますので、その際は御協力ください。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

